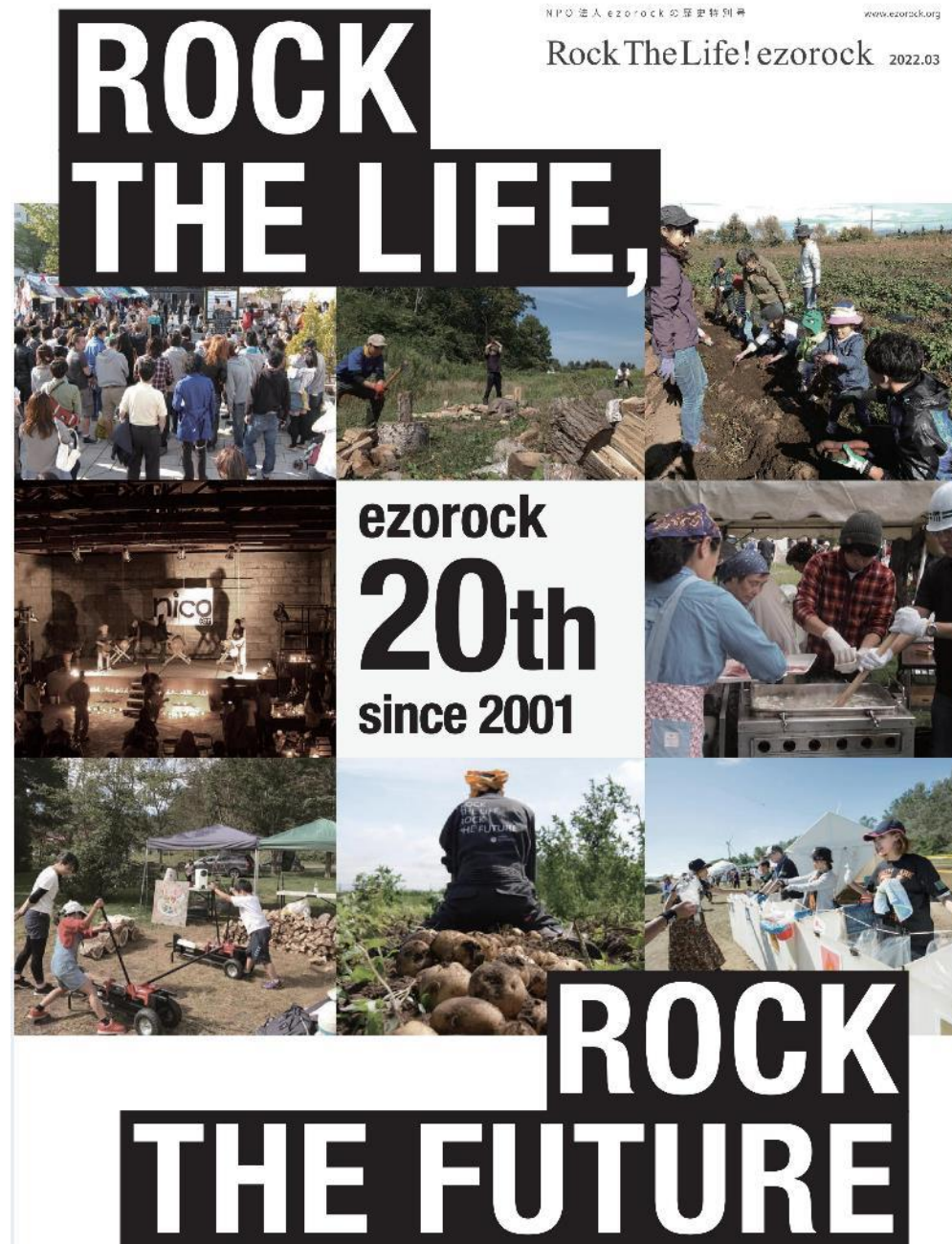


この組織が、
なぜ20年続けることが
できたのか。

時代に合わせた、組織の変化について

NPO法人 ezorock
代表理事 草野 竹史



ezorockは自己との対話

リーダーは誰よりも活動を楽しんでいる人

できるかできないじゃなくて、やるかやるかやで

ただ、鎧は脱げるようにしておく。背伸びは大事。

たまの100点じゃなくて、毎回60点を出すのが大事

主体的であれ。ただし人の主体性を奪ってはいけない

いつものつながりが、いざという時の力に

やると決めたことですから

ezorockのゆーみんから個人のゆーみんとして認識してもらえようになった気がして嬉しい

これまでの人生で考えもしなかった価値観と出会って、プラスからマイナスまでいろんな感情を味わって、自分を見つめ直した場所

リーダーの視点がない人にこそ、リーダーをやってもらったほうがいい

関わられるスキがある

好きになったから関わるのではなく、関わるうちに好きになっていった。その場や、地域に好きな人ができ、自らの役割を見出した瞬間が大切

ezorockはできることを広げる場

うるせえ

ezorockは来場者と主催者の橋渡し役になれる

周りがバイトとかで稼いでいたとしても、自分らは活動通して同じくらい貴重な経験が出来ていると思う。

いいかい、ロックキッズ達。

夏は遠いと思っててもすぐにやってくるんだぜ。

あつと油断した時に何か起きたり、失敗する悔しさが多い分、成長もできます。

あと、楽しいです笑

若いうちに自分の限界を決めて挑戦しない癖は作らない方がいい

お前が楽しんでて、それが何なの？

何でそんなに病みつきになってるの？ また今年も来てる理由はあるの？

震災後、こんなに会っている人は他にいない。友だちよりも会っている。

ちゃんと話さないと人は動かないんだ

ランティアって普通に悩みなながら印象だっただけで、普通だと思ってる

老兵は死なずただ消え去るのみ
みんなありがとう!!
自分の意見をいうことはおかしくないんだ
つて気づいた

そのままだと、お前の人生、一生ごみ拾いだぞ。

「やってみる」のきっかけは何でもいいんだよ

みんな本気なんだなって思った。それを見たら、おれらも地域もまたやれることあるなって思った。

活動っていうのは皆迷惑かけ合うと思うんだ

次
いつくる？

でも、成長のスピードは失敗して覚えた方が早い

自分が変われたらいいな
っていう思いで突っ走ってきた

エゾロックは失敗してもいいけど、失敗したくないって意地を張る場所

本当にやりたいことがあるなら10000時間やってみる。その道を極められるかはそれだけやり込まないとわからない。

思い返すと本来の目的じゃなかったところで影響されて、今の自分になったってところがある

来年残って来年の人にSQのやり方引き継がないと活動なくなるよ

北海道のことは、北海道の人の手できれいにすべきじゃないか

それは社会を変えたいの？それとも自分だけでいいの？
ん？それじゃ、こつち(自然体験)の世界へようこそ

名言の詳細はWebサイトにて▼



2000～2006

【第一期】「青年団体“ezorock”の設立」



伊藤麻純 まー

現在の所属：カナダ在住

参加していた活動：環境対策活動EarthCare

ezorockが20年持つなんて、考えて無かったよね。団体名決めるときの投票は本当にびっくりだったし。11人いて10対1で、タケシだけ「ウエスに怒られるからezorockにしようよ」って言った。その前からチーム名で使ってたから、なんとなくみんな「ezorockでしよ」って思ってたと思うんだけどね。タケシ以外(笑)「別に日本だとマイノリティでいることがすごく難しいじゃん。同調圧力で、ゆるさん」みたいな。でも、ezorockがそれぞれの環境で地道な活動をしていくこと、そしてそれを肯定していくこと、それでもいいじゃん、ezorockらしくやるうって思いながらやってこれたのは、札幌のNPO業界とか活動家の先人たちを身近に見る、接することができる環境と機会があったからだと思う。10代、20代の前半で何をやってたか、今思うと自分の今の暮らしに割と影響している。何をやってたか、その頃出逢った人たちは今でも大きな財産。



宮本奏 かなでい

現在の所属：NPOファシリテーションきたのわ

参加していた活動：ezorock事務局

今に繋がるこれまでの経験っていうのはezorockが1番大きい。自分が団体の代表していく中でもezorockの時はどうしてたかなーと思出すよ。会議一つとっても、話し合いのシーンとか、何かを伝える時にはezorockでやってきた話し合いっていうのがベースにあるんだよね。やっぱりでも、この時期のEarthDayEZOが本当に大きくなって、ezorockのメンバーだけではない大人の人たちと一緒に話し合ってたイベントをつくりあげていくっていうことも大きな成果として見えるし、「ezorockってすごいね」って言われるわけよ。すごく必要とされているかもとか、私たちこんな力持っているんだなって気づけた。それはね、自信になっていったひとつだった。そしてその後も一緒に仕事したり、久しぶりに再会して最近どう？っていうのは今でもあるから、深い関係性が作れたんだっていう。あの時の出来事や経験は何だったんだろうなっていうのは、もうちょっと掘り下げてもいいかも。何がそんなに強い関係性を作ったんだろうとか。



井下友梨花 みどり

現在の所属：社会教育関連(熊本)

参加していた活動：環境対策活動EarthCare

最近「これからどうしようかな」って思って、立ち止まって考えた時に、いつが一番自然体だったかなとか、いつの時が一番自分として未来が明るいって思ったかなって考えると、結構大学時代だったような気がするんだよ

ezorock 2000-2021 History

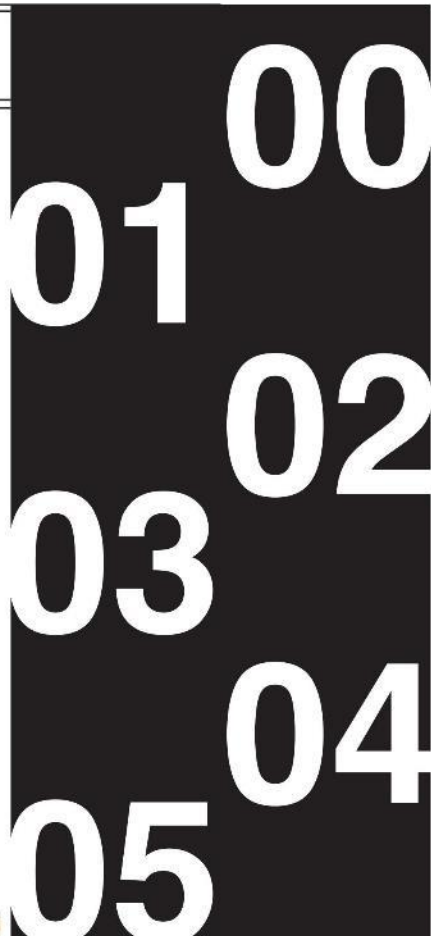
●A SEED JAPANごみゼロナビゲート北海道チーム「ezorock」設立 以後、RSRにて環境対策活動を実施

●電気をなるべく使用せずキャンドルの灯りで楽しむ音楽祭 自主企画nico※1 実施(～2009)

※1 主催音楽イベント。冬至に合わせて電気をなるべく使用せず、キャンドルの灯りで楽しむ音楽祭。



●さっぽろ村コミュニティFMにて「Rock The Life ezorock」のラジオ放送開始



●RISING SUN ROCK FESTIVAL 2000 in EZO(以下、RSR)にて国際青年環境NGO A SEED JAPANが環境対策活動を実施

●初事務所 炭谷会館(北海道NPOサポートセンターに机を借りる)

●RSRにてフェス史上最強の13分別の開始



國塚篤郎 くに

現在の所属：会社員(札幌) / ezorock理事

参加していた活動：環境対策活動EarthCare

隙間、隙間にしか接点がないから、ある意味接点になった隙間は全部新鮮だと思ったし、そういった形で継続的にezorockに関係させてもらえるというのも、距離の懐の深さだ。もちろん理事としてやるべきことはやるつもりでいるけど、そんなに影響力を行使する立場でもなく、そうする気もない。そんな関わり方の自分がいる一方で、自分の全リソースを投げ打ってやってくれる人たちがいる。そういう両極のあり方が共に許容されるっていうのはなんかすごいんだと思う。いろんな人の入れ替わりがあったりして、固定した関係性に固執しないのも面白いかな。理事をやらせてもらって長いんだけど、最初は自分役に立ってるのになんか感じていまだに不安に思う時はあるものの、逆にずっといないからこその違う視点を持ちこめるっていうポイントに、逆に存在意義ってあるのかなって思い始めてる。あとは、自分のキャリアの中でもいくつかカーニングポイントがあって、その時々に合わせて、こちらとしても組織をうまく利用させてもらってるころはあると思う。そういうのは絶対にありがたいなーと思います。



浅野目洋平 よーへー

現在の所属：NPOスタッフ(札幌)

参加していた活動：環境対策活動EarthCare

やっぱり影響っていう意味ではあるよね。楽しくてやってたし。多感な時期というか、その頃にラジヲとかもそうだけど、経験できないような経験が出来たことは今にも生きてるし。それまで普通に中高校生の頃は「マジョリティ」な価値観とか世界観しか知らなかったけど、それ以外にも道はあるんだみたいなことを知ったり、一緒に活動する仲間とか、心強い経験とかっていうのがあるのはめちゃくちゃでかいと思う。良いものは良いという信念を持って動くことに自信を持てるようになったのはでかくなって。それはOBOGたちと再会した時にも感じる。普通に一般企業で働いてる人もいっぱいいるけど、そうじゃない割合も、中学校の同級生に比べたら圧倒的に多いだろうし。すぐ生き生きしてたりとか、面白いことやってるなみたいな。なんかエネルギーがちゃんと燃えている生き方してるなっていう人も多い気がする。ROCK THE LIFEしてるなって、活動していた人たちに対して思う。

2006~2010

【第二期前期】「環境NGOとして事業化・独立」

いかも。何がそんなに強い関係性を作ったんだろうとか。



井下友梨花 みどり

現在の所属：社会教育関連(熊本)

参加していた活動：環境対策活動EarthCare

最近「これからどうしようかな」って思っ、立ち止まって考えた時に、いつが一番自然体だったかなとか、いつの時が一番自分として未来が明るいって思ってたかなって考えると、結構大学時代だったような気がするんだよね。例えば、高校時代までは、分からないことを分からないと言わないでおこうって感じだったけど、ezorockでみんなが納得するのを大切にしようって感じだ。進めてたのがすごく衝撃的だった。一人一人の納得感とかを大切にしていって、一周回ってezorockを見たときに、すごいなって思ってる。あとは、ボランティアコーディネーターの視点を持ってと思う。参加してる人が今どんな気持ちなんだろうとか、本当にいい時間かどうかなとか。その視点はezorockにいたから身についてるなって感じるし、ezorockとかで感じること突き詰めて考えてアクションに変えていくって経験があったから、今の(熊本での)活動に関わってるんだと思う。



高橋苗七子 ななこ

現在の所属：会社員(喜茂別) / ezorock理事

参加していた活動：ポラ旅北海道

自分がざりざりに引張っていくリーダーじゃないといけなくて思ってたんだけど、でもすぐに、自分が全然できないという壁にぶちあたって。そんな時、まか(元事務局スタッフ)が「速くいかなら一人で行け、速くいかならみんなで行け」みたいなことを言っていて。そうしていったら、自分が思いもなかったようなことができていくじゃん。結果的にその方がいってことを納得しながら学んだ。刺さったのは、タケシの「ベクトルを自分しか向けてない」って言葉。自分のことばかり考えているよねって。で、まさにそうすぎてむちゃくちゃ刺さった。そういうさ、誰も言わないことを行ってくれるよね、ezorockって。あと、私は孤独にさせられたことがないというか。あらゆる資源をさ、集めながらみんなで作ってた。チャレンジできる場っていうだけだったらベンチャー企業でも出来るけど。その人の実力が無くても、寄せ合うことで違うものが出来上がる。不思議な場所だと思う。

よく思い出するのは、ハイエースに乗ってRSRの会場に行くときとか。会話を覚えているわけではないんだけど、楽しかったなって。特にね、助手席が結構楽しくてさ。「最近どうよ」みたいな話になるじゃん。そういう話ができる場っていいのが結構いい。ミーティングではさ、勇気振り絞って発言した瞬間は何回もあったと思う。「何でもいよ」とか「研



● さっぽろ村コミュニティFMにて「Rock The Life ezorock」のラジオ放送開始



● RSRオーガニックファーム※2 開始
● Earthday EZO※3 実行委員会事務局となる(～2011)

※2 RSRで出る生ごみを堆肥化し、その堆肥をつかってオーガニックじゃがいもを栽培。じゃがいもはRSRの来場者に再び戻る。

※3 地球環境について考える日として提案された記念日Earthdayに合わせて環境問題に関するイベントを実施する北海道事務局を担った。

● RSRで古々米(食べられなくなった米)を使用したごみ袋の配布開始(～2016)

● 内部メンバーの連絡ツールとして、団体専用SNSの運用を開始(～2012)



04
05
06
07
08
09
10



● 環境NGO ezorockに改称・事業化 代表理事草野竹史就任

● www.ezorock.orgのWEBサイト運用開始

● 初の個室スペース事務所となる市民活動スペースアウ・クルへ移転

● 50年後の未来を考える Vision 2050※4 開始(～2011)

※4 洞爺湖サミットをきっかけに立ち上がった50年後の未来を考えるチーム



● Rock The Farm-新琴似ふれあい農園-※5 実施(～2011)

● ポロクル※6 実証実験実施(2011～本格

うのがあるのはめっちゃくちゃでかいと思う。良いものは良いという信念を持って動くことに自信を持てるようになったのはでかくなって。それはOBOGたちと再会した時にも感じる。普通に一般企業で働いてる人もいっぱいいるけど、そうじゃない割合も、中学高校の同級生に比べて圧倒的に多いだろうし。すごく生き生きしてたりとか、面白いことやってるなみたいなの。なんかエネルギーがちゃんと燃えてる生き方してるなっていう人も多い気がする。ROCK THE LIFEしてるなって、活動していた人たちに対して思う。

高橋優介 ゆーすけ

現在の所属：ワークショップデザインdescribe with

参加していた活動：ポロクル



周りの人が楽しそうにやっていると、人と人が真剣に話していることが日常で起こっているのが新鮮だった。今までなかったから、こういうのもあるんだって。あと、タケシに言われた「きっかけはなんでもいいんだよ」って言葉があるんですけど。人にとってきっかけはバラバラだから、特にやることないならまずやってみたらいいんじゃないかっていう。それが僕にとってはキーポイントでしたね。まずやってみるのがすごく大事。最近も、まずやってみようって動いてる人は、その先の選択肢が広がったりしている。それは、周りで一緒に振り返ってくれる人とかサポートしてくれる人とかがいるっていうのもありますね。だからこそ、できるんだって。そう意味で、ezorockの環境はすごかったなって思います。ezorockって繋がり続けて色んな刺激を貰っていく場としての価値もすごくあると思う。過去に活動していた人も、もう一回ezorockにアサインしてほしいなって思いますね。

山條力矢 じょー

現在の所属：公務員(吉平)

参加していた活動：大雪山国立公園旭岳自然保護プロジェクト



最初に旭岳に行った時、自分は自然環境の勉強をしているって立場だった。そんな自分が、受け入れスタッフである自然保護監視員の方々に、自然は守るといよりは未来に残すものだよって言われた。「守る」だと上から目線になっちゃう。だから共に生きて未来にいいものを残していこうって方向に意識が変わったのを感じている。監視員の方は助けが必要ない状態で、わざわざ本人のボランティアで何かできることがあるのかっていうところから探っていて。そんな時に監視員の方から「こっちも色々成長ができておりがたい」って言われた時は、嬉しかったな。自然は守らなきゃいけないみたいな堅気なイメージが、自分の中で具現化された活動だったと思う。ezorockの影響は受けているけど、一緒に試行錯誤しながら

2010~2013

【第二期後期】「震災支援と環境団体としての限界」

人で行け、遠くへいくならみんなで分け「みたいなことを言っていて、そうしていったら、自分が思いもなかったようなことができていくじゃん。結果的にその方がいいってことを納得しながら学んだ。刺さったのは、タケシの「ベクトルを自分にしか向けてない」って言葉。自分のことばうか考えているよねって。で、まさにそうすぎてむしろちゃっちゃ聞きた。そういうさ、誰も言わないことを行ってくれるよね、ezorockって。あと、私は孤独にさせられたことがないとか、あらゆる資源をさ、集めながらみんなでやってた。チャレンジできる場ってうだけだったらベンチャー企業でも出来るけど。その人の実力がなくても、寄せ合うことで違うものが出来上がる。不思議な場所だと思う。

よく思い出するのはね、ハイエースに乗ってRSRの会場に行くときとか。会話を覚えているわけではないんだけど、楽しかったなって。特にね、助手席が結構楽しくてさ。「最近どうよ」みたいな話になるじゃん。そういう話ができる場ってのが結構いい。ミーティングではさ、勇気振り絞って発言した瞬間は何回もあったと思う。「何でもいい」とか「疑問に思ったことは出していいよ」って言うのはさ一言言われていたから、心理的安全性のある組織だったと思うよ。そこから湧き上がる議論って大事だと思うし面白いじゃない？色んな人がいたよね。信頼感が違う人が混ざるからこそ合わない、意味わかんないってなるし。でもそれが逆に、心理的安全性にも繋がると思うか。他の人と同じではなくていいってうね。のびのびと過ごしていたと思う。何かが変わるわけでもなく、徐々に徐々にezorockの活動も含めて他の日常的なことも混ざって変わっていったんだと思う。



小林彩佳
きやん

現在の所属：
公務員(東京)

参加していた活動：
環境対策活動
EarthCare

念日Earthdayに合わせて環境問題に関するイベントを実施する北海道事務局を担った。

- RSRで古々米(食べられなくなった米)を使用したごみ袋の配布開始(~2016)
- 内部メンバーの連絡ツールとして、団体専用SNSの運用を開始(~2012)



- 現事務所へ移転(初の軒家)
- 釜石支援^{※7} 開始(~2012)
- ふくしまキッズ^{※8} 北海道ボランティア事務局開始(~2015)
- ※7 東日本大震災で被害があった岩手県釜石市の復興支援活動を実施

※8 東日本大震災の原発事故被害があった福島県の子どもたちを長期休みに全国で受け入れ、自然体験活動を実施。ezorockは北海道のボランティア事務局を担った。

- 法人格を取得し、環境NGOからNPO法人 ezorockへ
- 2009年から運用していた団体専用SNSをSalesforce chatterへ移行
- 2009年から休止していた定例会議(内部の全体会議)を復活させる
- プロジェクト「NINOMIYA」^{※10} 開始

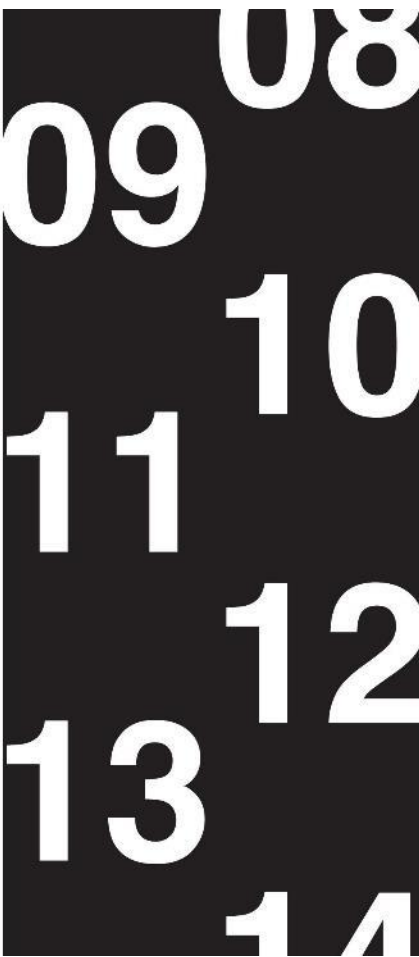


西脇宏伸 わっきー

現在の所属：NPO法人雨澤別学校

参加していた活動：ふくしまキッズ

まずはふくしまキッズ2012冬の振り返りの時かな。僕の周りにはボランティアも、色々な活動を手伝ってくれる大人の人、支援してくれる人もいる。そんなことを考えないで、ただ自分が楽しい、気持ちいいだけで活動してただる？って振り返り言われた。すぐ変わったって感じでは無いけど、自分が前に出ればいだけじゃないってことをめっちゃ大事にするようになった。もうひとつは、大浴で活動中に教員採用試験の結果発表があって、自分の受験番号が無くて、いぶり自然学校の上田さんに「わっきーくん、こちらの世界へようこそ」って言われたのが、一番吹っ切れたというか。教員じゃない道を目指してもいいかなって思ったのがそのタイミング。ezorockは、ボランティアの僕らにチャレンジさせてくれる場を用意してくれていて、ステップアップをさせてもらったのかなって思っている。立場によって視点はやっぱり色々変わるよね。毎回色んな視点で物事を見たのが偉大さか



ZUSU^{※4} 開始(~2011)

※4 洞爺湖サミットをきっかけに立ち上がった50年後の未来を考えるチーム



● Rock The Farm-新琴似ふれあい農園^{※5} 実施(~2011)

● ポロクル^{※6} 実証実験実施(2011~本格始動)

※5 新琴似にある市民農園の運営管理を通して利用者と世代間交流をするプロジェクト

※6 札幌中心部で実施しているシェアサイクルの管理を行うとともに、自転車のルールマナーの啓発活動なども担当

● レコードシェアリング事業RECO^{※9} 始動(~2014)

※9 家庭で不要になったレコード回収し、世代を超えたコミュニケーションツールとして新たなつながりを創出するプロジェクト



● ボラ旅北海道^{※12} 開始(~2019)

● 1プロジェクト2スタッフ制

ezorockにアサインしてほしいなって思いますね。

山條力矢 じょー

現在の所属：公務員(吉平)

参加していた活動：
大雪国立公園相長
自然保護プロジェクト



最初旭岳に行った時、自分は自然環境の勉強をしているって立場だった。そんな自分が、受け入れスタッフである自然保護監視員の方々に、自然は守るというよりは未来に残すものだよなって言われた。「守る」だと上から目線になっちゃう。だから共に生きて未来にいいものを残していきたいという方向に意識が変わったのを感じている。監視員の方は助けが必要ない状態で、わざわざ素人のボランティアで何かできることがあるのって言うところから探っていて、そんな時に監視員の方から「こっちも色々成長ができてありがたい」って言われた時は、嬉しかったな。自然は守らなきゃいけないみたいな理屈なイメージが、自分の中で具現化された活動だと思ってる。ezorockの影響は受けているけど、一緒に試行錯誤しながらやってた感があるって、ピンポイントで突き刺さるというよりは、雨が降ってみたい。自分の中の土壌には至るところにezorock成分とか大雪山成分はある。

崎川哲一 てつ

現在の所属：ezorock事務局 / 合同会社森のビタグラス

参加していた活動：ふくしまキッズ / プロジェクト「NINOMIYA」

やっぱりふくしまキッズかな。初参加の時、10日間食事を作り続ける食(事)担(当)にいました。子どもと会う瞬間なんて配膳の瞬間だけで、今じゃ考えられない劣悪で辛い環境の中でやっていたんだけど。そんな中でも、ボランティア全員なんか爽やかなんだよね。活動を楽しみむけと真面目に誰かに尽くすっていう、活動の根拠というか。最後の最後に子どもに「てつありがと」って言われて、「俺はのために10日間やってたんだ」ってえらい涙に落ちたんだよね。やってきたことがびたっと見えた気がして。冗談抜きで世界が輝いて見えた。これが無かったら俺はNPOとかボランティアとか気持ち悪いと思ってたね。あとは、NINOMIYAかな。本当に過酷というか。俺の中ではめちゃくちゃに辛かったんだけど、そこまで頑張ったことって何かを生でたんだなって。あの瞬間バカになって頑張っていた結果、信頼を生むし。顔に汗かいて頑張ることを学んだターニングポイントでした。



ピンポイントでどこがターニングポイントだったっていう話は難しいんで

2013~2018

【第三期前期】「環境NGO」から「NPO法人」へ

温まって変わっていったんだと思う。

復興支援活動
EarthCare



西脇宏伸 わっきー

現在の所属：NPO法人雨澤別学校

参加していた活動：ふくしまキッズ

まずはふくしまキッズ2012冬の振り返りの時かな。僕の周りにはボランティアも、色々な活動を手伝ってくれる大人の人、支援してくれる人も

いる。そんなこと考えないで、ただ自分が楽しい、気持ちいだけで活動してたらだろって振り返りで言われた。すぐ変わったって感じでは無いけど、自分が前に出ればいだけじゃないってことをめっちゃ大事にするようになった。もうひとつは、大沼で活動中に教員採用試験の結果発表があって、自分の受験番号が無くて、いぶり自然学校の上田さんに「わっきーくん、こちらの世界へようこそ」って言われたのが、一番吹っ切れたというか。教員じゃない道を自指してもいいかなって思ったのがそのタイミング。ezorockは、ボランティアの僕らにチャレンジさせてくれる場を用意してくれていて、ステップアップをさせてもらえたのかなって思っている。立場によって視点はやっぱり色々変わるよね。毎回色々な視点で物事を見たのは大きいかな。今の職場にも繋がってるし。



林亜希 あき

現在の所属：会社員(福島)

参加していた活動：ふくしまキッズ

自分が福島出身で、震災も経験しているのもあって、ふくしまキッズに関わってみたくて思いました。あと、自分が昔から海に行ったりとか木登りしたりとか自然に触れて育ってきたのもあって。そういう楽しさを知ってほしいなっていうのもあって参加しました。活動して、震災って子どもにとってすごく衝撃的だったんだなって。お土産買って「非常食にする」って言っていたり、心のケアも必要なんだろうなと感じました。今振り返ると、そういう活動に社会人になってから関わる機会もあまりないし、すごく貴重な体験だったんだなって思います。こういう活動に参加しなければ、こんな経験はできなかった。活動中、異方をやっていた時は「現場を把握して他の人に指示を出さないといけない」みたいな状況があって、それは社会人になって身に染みる。人に指示をしないといけないときがあるので。あまり名言らしい言葉は浮かばないですけど(笑)



松山由実 ゆーみん

現在の所属：会社員(岐阜)

参加していた活動：石狩体験キッズ「チボロ」/ 浜島ベース

チボロの現場整備で草刈りして、それまでは入れなかった森に子どもたちが入って行くと「アアア」って

復興支援活動を実施

※8 東日本大震災の原発事故被害があった福島県の子どもたちを長期休みに全国で受け入れ、自然体験活動を実施。ezorockは北海道のボランティア事務局を担った。

●法人格を取得し、環境NGOからNPO法人 ezorockへ

●2009年から運用していた団体専用SNSを Salesforce chatterへ移行

●2009年から休止していた定例会議(内部の全体会議)を復活させる

●プロジェクト「NINOMIYA」※10 開始

●Hokkaido youth sessions GREENDAY※11 開始

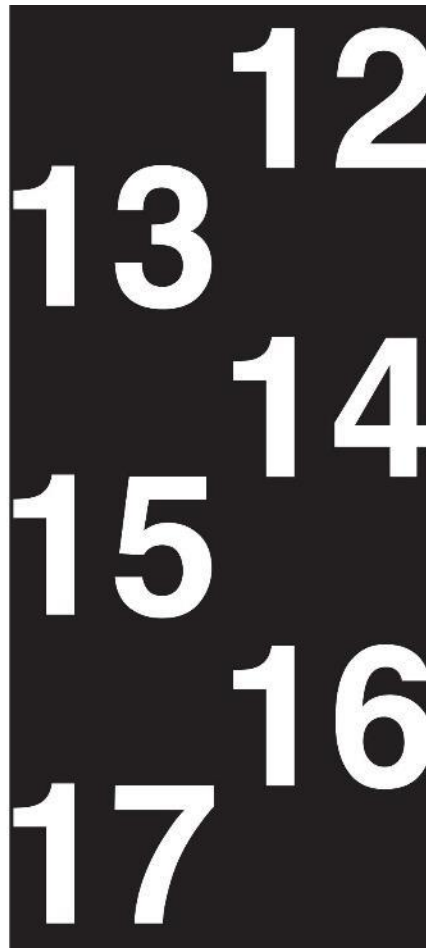
※10 未利用材とよばれる未活用の木材資源を使用した薪づくり、および薪の販売を実施

※11 北海道や世界を舞台に活動する方々をゲストにさまざまなテーマの講演会、ディスカッションやアウトプットも取り入れた研修事業。

●ezorock写真展実施(～2016)

●澄川乾燥野菜研究所Sumi Lab※14 始動(～2020)

※14 防災のまち澄川で長期保存ができ、防災に役立つ乾燥野菜の普及活動を実施



●レコードシェアリング事業RECO※9 始動(～2014)

※9 家庭で不要になったレコード回収し、世代を超えたコミュニケーションツールとして新たなつながりを創出するプロジェクト



●ボラ旅北海道※12 開始(～2019)

●1プロジェクト2スタッフ制(コーディネーター+リーダー体制)の実施

※12 都市部に住む若者が道内各地の環境問題や地域課題をその地域の方と一緒に解決する活動

●ふくしまキッズの後継として、石狩体験キッズ「チボロ」※13 開始

※13 石狩を中心に、子どもを対象に自然体験の“機会”と“場”を提供するため活動



参加していた活動：ふくしまキッズ/プロジェクト「NINOMIYA」

やっぱりふくしまキッズかな。初参加の時、10日間食事を作り続ける食(事)担(当)にいまして。子どもと会う瞬間なんて配膳の瞬間だけで、今じゃ考えられない劣悪で辛い環境の中でやっていたんだけど、そんな中でも、ボランティア全員なんか爽やかなんだよね。活動を楽しんだけど裏面に誰かに尽くすっていう、活動の根源というか、最後の最後に子どもに「てつありがとう」って言われて、「俺はこのために10日間やってたんだ」ってえらい涙に落ちたんだよね。やってきたことがびたっと見えた気がして。冗談抜きで世界が輝いて見えた。これが無かったら俺はNPOとかボランティアとか気持ち悪いと思ってたね。あとは、NINOMIYAかな。本当に過酷というか。俺の中では辞めちゃうくらいに辛かったんだけど、そこまで頑張ったことって何かを生んでたんだって。あの瞬間バカになって頑張っていた結果、信頼を生むし、額に汗かいて頑張ることを学んだターニングポイントでした。



山根静夏 しいちゃん

現在の所属：会社員(札幌)

参加していた活動：ボロクル

ピンポイントでどこがターニングポイントだったっていう話は難しいんですけど。普通に生活してきて、小中高校大学行って、そこでは言われた通りにお勉強してたっていう感じがして、ezorockに入って、まず視界が広がった。色んな出来事がある。こういうことも出来るんだっていうのを知れたし、自分に何が出来るのかとか、あと、色んな人がいて。そういう色んな人がいる中でどうやって進んでいくかっていう段取りとかコミュニケーションとか、そういうのを全部学べた気がして。で、社会人になって現場に行ってもそれはすごく大事なことだと思って。なんか、うまく言えないんですけど。取り組む課題に対してどう考えるかっていう考える子からはezorockで教えてもらったっていうのはすごく感じている。感謝してます。あとは、誰かがパチパチやってるのが私のezorockのイメージ。どっかで常に誰かと誰かがぶつかり合ってる。本音のどつきあいをしているイメージ。



水谷あゆみ たに

現在の所属：ezorock事務局

参加していた活動：プロジェクト「NINOMIYA」

私は、厚真町教育委員会の齊藤烈さんに地震があって2年後くらいに「こんなに会ってるの ezorockの入りく、友達より ezorockの人の方が会ってる」って言われたこと。災害があった

2018~2022

【第三期後期】胆振東部地震とコロナ過における変化

天で奪って身に染みる。人に指示をしないといけないときがある。あまり名言らしい言は浮かばないですけど(笑)



松山由実 ゆーみん

現在の所属:会社員(岐阜)

参加していた活動:石狩体験キッズ「チポロ」/ 浜益ベース

チポロの現場整備で草刈りして、それまでは入れなかった森に子どもたちが入って行って「ここ楽しい遊

るよ〜」って言ってたのが衝撃過ぎて、私がやりたいことってこういう事だったなって思った。この価値をつけるって、こんなに地道な作業だけ出来るんだっていう。あとでつと、私は森がきたし、将来は森とか自然を繋ぐ人になりたいって話していた時に「それは私だけがやりたいの? 社会を変えたいことなの?」って言われた。そんな大それたことなんにも考えてへんって思いながら帰るっていう。でも未だに自問自答している言葉。もうひとつは、浜益の文化、それまでは、普通に良いところしか見えてなかったんだけど、バス2台におじいちゃんおばあさんが乗せられて運ばれてきて、現実を見たというか。良くも悪くも浜益ってこういう地域なんって思った瞬間に、私はここで色々やりたいなと思った。浜益で何かをやりたいなと思ったポイントですね。

日中慎之介 んちゃん

現在の所属:大学院生

参加していた活動:3リレーションズ



思いつくのは、初めて標津町の活動に行った時。他の参加メンバーは、標津の人に何回か会ってる状態で、自分だけ初めての人間って状態だった。で、標津の人たちとの関係を見て、長く関わるとこういう風になるのかなって思った。正直、距離は遠いし行きにくいけど、そういう関係ができるんだってことを目の前で見た気がして。それまで人付き合いって面倒くさいイメージしかなかったけど、なんかいいあって。そこで、ここに関わるところまで関わり続けようかなって思い始めたんだと思う。ezorockは、初めて近い感じで、受け入れられてるんじゃないかなって感じることがある。厚真町の農家さんから「何かあればいつでも来て」って言われていたり、たま〜にぶらっと顔出した時に名前呼んでもらえたり。今までそういうのなかった。

● 澄川乾燥野菜研究所Sumi Lab※14 始動 (~2020)

※14 防災のまち澄川で長期保存ができ、防災に役立つ乾燥野菜の普及活動を実施



● 浜益リレーションズ(現浜益ベース)※16 開始

※16 石狩市浜益区で活動拠点「はまますベース」に滞在しながら地域の人たちと都市部に住む若者がさまざまな課題解決に取り組む



● 団体設立から20年



- 北海道胆振東部地震支援活動実施
- 平成30年度未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー内閣総理大臣表彰受賞



- ボラ旅北海道から179リレーションズ※17へ
 - 新型コロナウイルス感染症対策として、ミーティングの原則オンライン化の実施
- ※17 道内179市町村で実施している持続的な地域づくり活動とその活動に関わりたい人の入り口を作る活動



メンバーの対談集はWebで公開中! ▶



水谷あゆみ たに

現在の所属: ezorock事務局

参加していた活動: プロジェクト「NINOMIYA」

私は、厚真町教育委員会の斉藤烈さんに地震があって2年後くらいに「こんなに会ってるの ezorockの人くらい、友達より ezorock の人の方が増えてる」って言われたこと。災害があった時に自分が置いてきぼりだった感覚が、その言葉で「時間が経ってるんだ」ってすごく思わされて。めっちゃでかかった。地震があってから毎日厚真に通って1か月くらいが一番辛くて。日中活動している時の非常時の感覚と夜に札幌に帰ってきた時の日常のギャップが激しくて。でも、自分は通ってるから厚真に滞在している時間って結局は、ぎゅって短くしたら何日かしかないじゃないですか。でも、実際厚真の人たちは何年も生きてるみたい。でもその一言で「そうか動いてるんだな」って思ってたんか吹っ切れたというか。これから新しい関係を築けばいいんだって。厚真での活動が今の179リレーションズにはすごく影響してるし、厚真との関係がその言葉ですごく変わったってのが、とても大きい。

チポロに入って面白そうだと思って続けようと思ったら、一緒にやってたメンバーが「来年はコアではやりません」みたいなこと言ってお。お、まじかってなってる時に「あんた口ではやりたくなさそうなこと言ってるけど、めっちゃチャリダーやりたさそうだよ」って言われて。そうなんだ、じゃあやるかって思った記憶がある。それがチャリダーをやる時のターニングポイント。あと、あそこまで原体験を言語化する機会は、ああいう場が無かったらなかったね。大切なのは、原体験があって、大学生になってから出会い直して。それをまた言語化したりとかが今の仕事にすごく繋がってる。それは間違いなく ezorock で過ごした時間なんだよね。名言でいうと、入ってすぐ位の時に「お前変だよなって言われて、喜んじやう奴がだいたい ezorock に長くいる」ってタクシに言われて。そこで、「お前は喜んでたぞ」って。

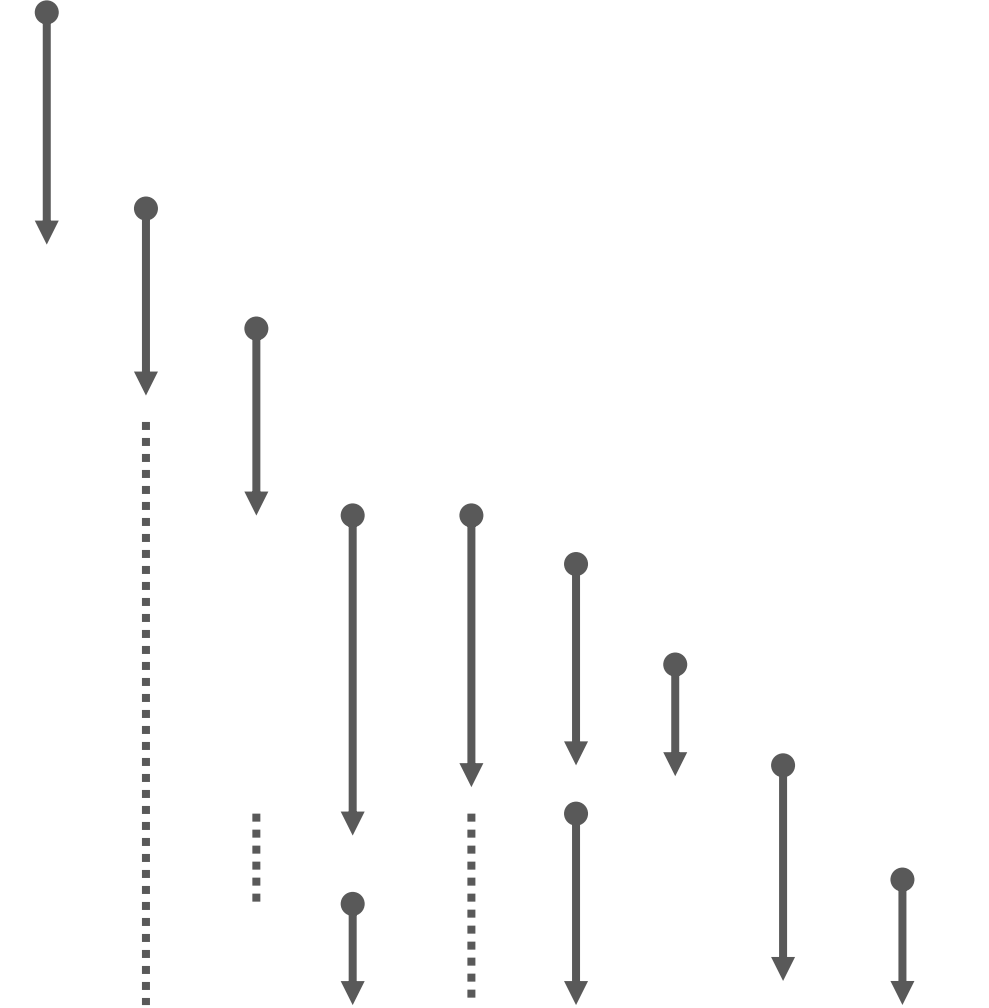
参加していた活動: 石狩体験キッズ「チポロ」

八木一馬 キング

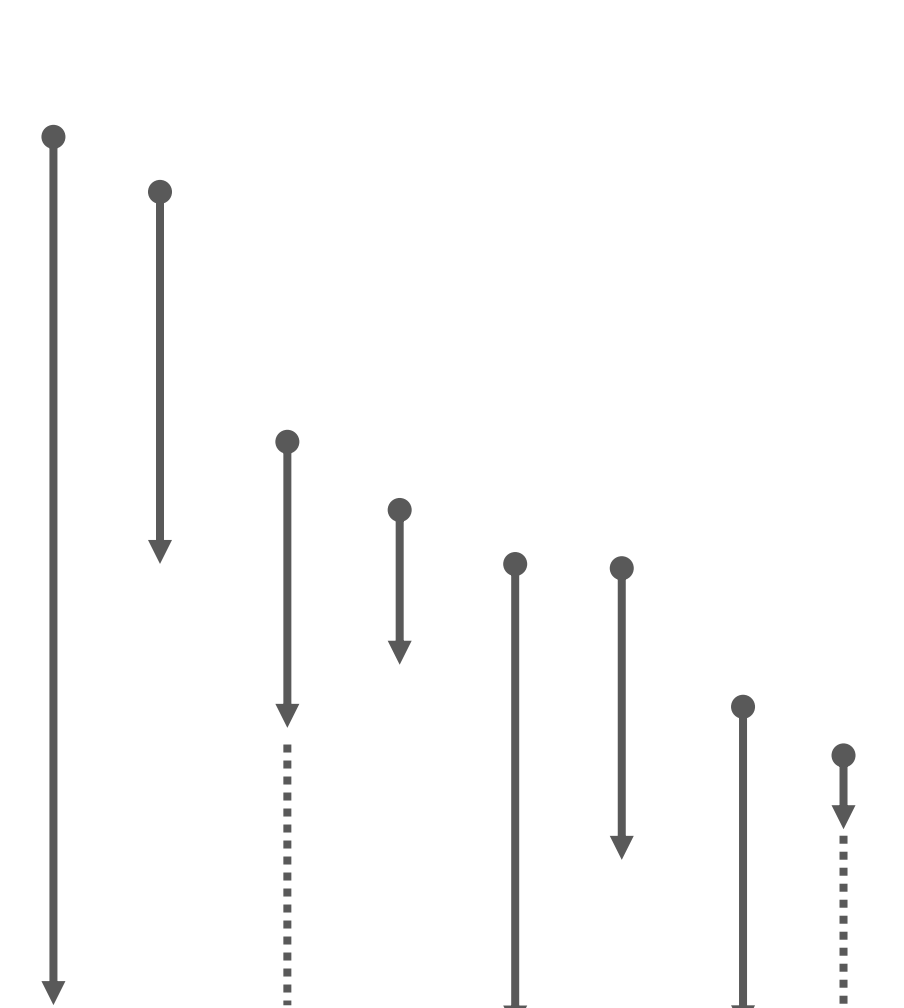


現在の所属: NPO 法人いぶり自然学校

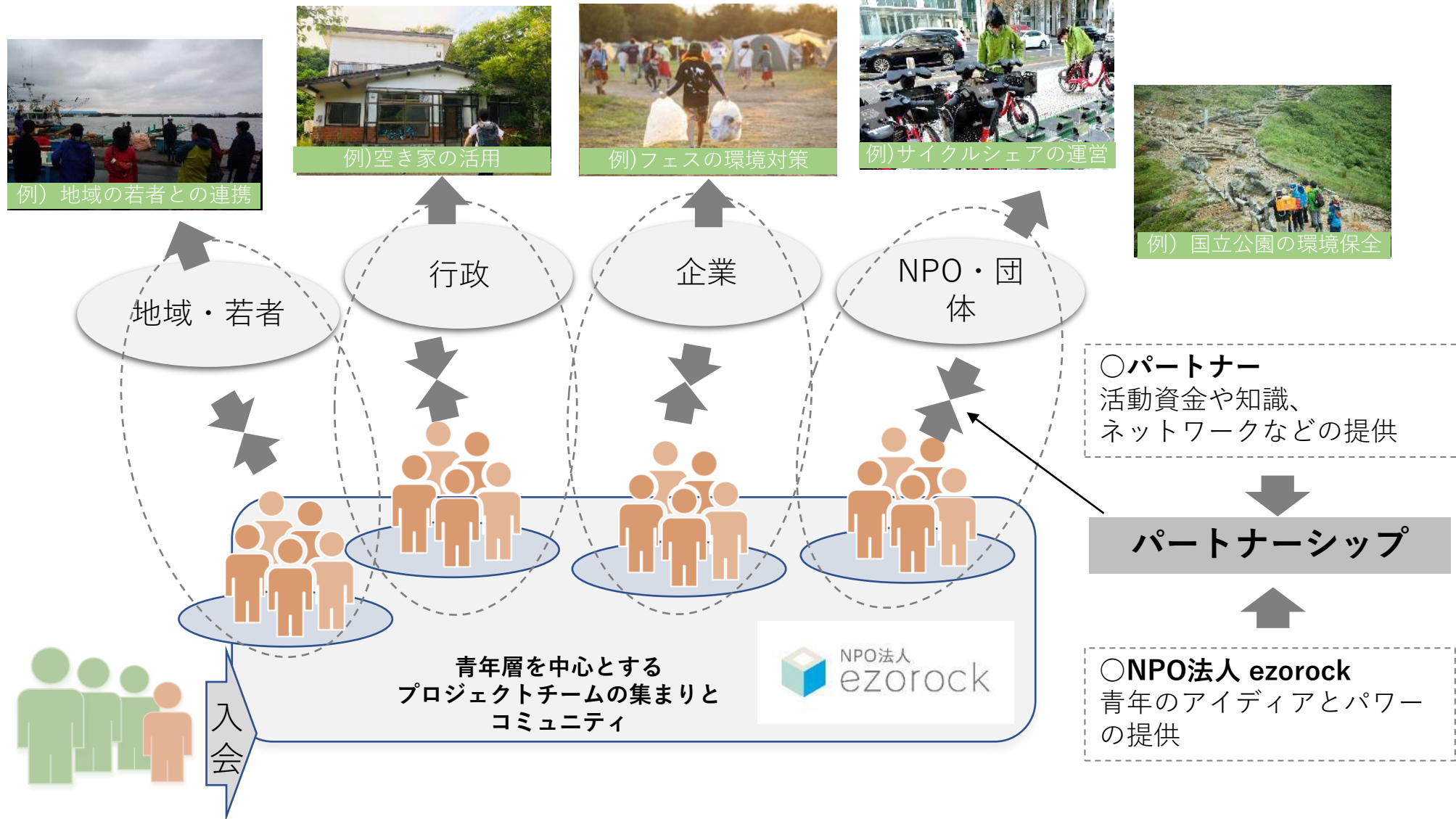
【参加年数】 毎年、関係者が増えていく



00
01
02
03
04
05
06
07
08
09
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21



【実施体制イメージ図】



【変化】活動の経年変化

	第一期(01～06)	第二期(06～13)	第三期(13～21)
組織形態	ezorock(任意団体)	環境NGOezorock(任意団体)	NPO法人ezorock
事業規模(年度)	数十万程度	400～3000万程度	4000万～5000万
代表者	毎年交代	有(総会にて)	有(総会にて)
有給職員	無	有(2～4名)	有(6～10名)
総会・理事会	無?	有	有
主な収入源	会費・助成	事業収入、助成	事業収入、助成
主なパートナー	中間支援組織	企業、一部自治体	自治体、企業、大学
会員数	10～20名	100～200名程度	200～300名程度
プロジェクトメンバー (通年参加)	数名	50名程度	100～150名以上
プロジェクト数(年間)	1	3～4程度	7～10程度
主な活動内容(通常時)	野外フェスの環境対策が中心	野外フェスのごみ問題、若者の環境活動推進、	野外フェスのごみ問題、若者の環境活動、地域づくりへの参加、災害支援、行政や大学等に対する中間支援など
情報共有	メールリストと 対面式のミーティング	社内SNS('09～) 対面式のミーティング	社内SNS('13～) 完全オンライン化('20～)
関連会社等	なし	なし	合) 森のピタゴラス 合) 北国熱源社(HGFとの共同出資)

ケース①：プロジェクトと人を育てる

在学中、バイトきっかけで団体の活動に参画



就職に悩んだ末、エゾロックで働くことに



半年後、北海道胆振東部地震の災害支援参画



翌年、地球環境基金の若手プロジェクトへ



関係人口×社会教育「179リレーションズ」設立



民間初の「社会教育士」行政と協働事業へ

水谷 あゆみ (26歳) 京都府出身



地球環境基金 若手プロジェクト
2019-2021 (470万×3年)
⇒事業規模約3倍、プロジェクトメンバー約5倍、団体の主力事業へ

ケース②：プロジェクトと人を育てる

学生時代子どもキャンプや森づくりに参加。

就職活動ですべての内定を辞退。路頭に迷う

3年間石狩の子ども農村体験の現場で活躍。

樹木医の試験に合格。北海道最年少樹木医へ

(合) 森のピタゴラス 設立。代表へ

木育×福祉 放デイ「もりぴた」開所

崎川 哲一 (30歳) 北海道大農学学院森林資源科学卒



農水省、子ども農産漁村交流事業
2016-2018 (2年×800万)+ α
⇒木製知育玩具開発・販売、創業
新分野開拓、雇用創出

ポイント①：申請書を誰が書くのか？

ポイント②：プロセスを共有する

ポイント③：助成終了後に、コミュニティは残る

「ご清聴ありがとうございました」